

島根大学研究見本市

研究テーマ名 知的障害児自身の個別の指導計画参画方法：個別目標対応画の自己選択と重み付け手続きの開発

Picture-Presenting Methods of Each Child's Educational Objects for Student-centered Individual Education Planning in Children with Severely or Moderately Mental Retardation

研究者紹介

小川 巖 (教育学部・教授)  
Iwao Ogawa (Faculty of Education, Professor)

概要

特別支援教育は、個に応じた教育目標・内容を設定して行う教育です。私のテーマは、子ども自身が教育目標設定に自我関与する手続きの開発や、その効果を検証することです。特に、言語的表明や目標選択力等の力がまだ発達途中にある、中・重度の知的障害児に適用可能な方法の開発です。個々の実態把握に基づき教師や保護者が設定した個別の指導計画での諸目標（抽象的文章表現）を、児童生徒自身が自己目標として選択し、重みづけ評価が可能なための方法として、実際に体験した（する）学習・課題解決状況を絵画化し、物語的に提示する方法を試作しています。

The Purpose of this study is to make picture-presenting methods of each child's educational objects for student-centered Individual Education Planning in children with severely or moderately mental retardation. Pictures of educational objects are based on actual learning episodes or learning stories of each student.

特色  
研究成果  
今後の展望

特別支援学級在籍の小学生・中学生を対象に実施した結果、精神発達年齢が5歳以上の場合、一貫した自己目標の選択と重みづけが可能であること、また、彼ら自身が優位に設定する目標と教師・保護者が設定する目標とが必ずしも一致しないことも明らかになりました。今後は、子どもが認識する目標を学校での個別の指導計画作成手続き過程にどう入れ込みその効果の評価するのか等について研究を進めて行きたいと思っております。

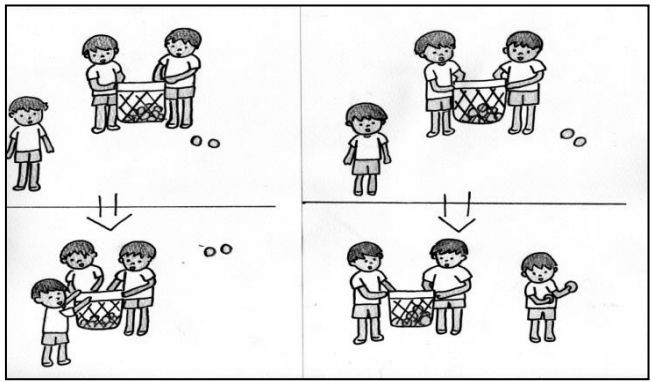


図 個別の目標画の対提示例

上図左側は、運んでいる友人に合流する（現在の生徒の状態）、右側は、残っているものを主体的に見つけ運ぶ（今後の目標）エピソードを絵化したものです。生徒にこれら対比的な絵を対提示し、どちらの自分になりたいか、どちらになるようどの程度頑張りたいか等問いかけ自己評価させます。

キーワード

特別支援教育, 個別の指導計画, 中・重度知的障害児, 生徒中心計画, 目標意識, 目標自己選択, 自己調整学習

リンク